

「昔の電子回路図をもとに、洗って、分解して、またくっつける。
古い電化製品を直すのって面白いですよ」





右/木製のボディや手回しのチャンネルが懐かしさをそそる。昭和30年代のブラウン管テレビ。映っているのは今の放送だが、画像はモノクロ。6万~11万円位。ラジオもちゃんと聴くことができ、2~3万円が売れ筋。左/古いテレビの内部機械を取り出し、丸ごと洗剤をつけて水洗い。中学生時代に使用した回路図集は、今も大場さんの宝物。



骨董&リサイクルショップ「Katsushita」の主人・大場敬志さんに聞く

懐かしのあの音が今再び甦る。

役目を終えていたかつての電化製品に

新たな生命を吹き込む、

修理店主の熟練の技と心意気。

バズルを解くようにひとつひとつ点検し、回路をつなげていく。

あのブラウン管のテレビを、真空管のラヂオやステレオを

昔の複雑な回路図をなぞって、当時のままに再生させる大場さん。

何より楽しい作業だと言いつつ、その驚きの工程と思入れを伺った。



レコードの針を落とすと、木製ゆえの柔らかな音が店に鳴り響いた。ステレオは8万円位〜。

最近、店に運んできたという、木

製ボディが懐かしい昭和30年代のブ

ラウン管テレビ。これから直すとい

うことを見せてもらおうと、テレビの

中に設置されていた機械の塊をおも

むろに取り出し、店の外でいきなり

洗剤をシュッシュと吹きかけた。

こちらの驚く声にも動じることなく、

次に歯ブラシで細かい隙間を磨き上

げると、ホースの水でジャブジャブ

と洗っていくのである。

「いや、さすがに真っ黒だったね。

こんなに水が汚れてしまつて……。

でもほら、さっぱりしましたよ」

爽快な笑顔でそう話すのは、修理

が出来る骨董屋さん。をキャッチフ

レーズに掲げる「Katsushita」

の主人・大場敬志さんだ。それにし

ても、電化製品の要ともいえる部分

を丸ごと水洗いしてしまうとは、素

人目にはただただ呆然とするばかり

しかし、汚れの水洗いは問題はなく、

むしろ大事な工程なのだという。仕

事



右から/ラジオのチューナーを合わせる大場さん。手回しロール脱水機が付いた洗濯機は、白黒テレビ、冷蔵庫と並ぶ三種の神器の一つだった。

上げにエアで水分を飛ばし、数日間天日干しをすると、ようやく具体的な修理作業に入れるのだ。

ここからの修理作業がまた凄い。まず、ぎっしりと複雑に線が絡まった配線状態を見るだけでも目まいがしそうだが、大場さんは何と昔の回路図に沿ってひとつひとつチェックし、手を入れていくのである。

「まあ、目視でだいたいどこに問題があるかわかりますが、基本的には回路図を解説しながら作業を進めていきます。確かに細かい。でもね、これが楽しいんですよ。大変なら大変なほど、絶対に音を出してやる、画像を映してやるってね……」。その笑みはまるで少年のようだ。

大場さんと電子機器との出会いは小学4年生の頃。隣家の先輩にラジオをいじらせてもらい夢中になったのが始まりだ。中学生の時はラジオ作りに明け暮れ、念願の電子科に入



修理して店頭で並べられるラジオ。昔の電気屋さんは、こうして直してくれたものだった……。

「映らないもの、音の出ないもの動かないものは売りません！」



上/デザインも洒落ていた昔のラジオや古いドアノブ。下/柱時計だってもちろん現役。2万円位〜。



った高校時代はアマチュア無線機器製作に没頭。その後、大手電子メーカー勤務を経て、2003年、50歳で早期定年退職し、転勤先でもあった福岡で今の店をオープンさせた。

昭和の古い電化製品を扱う骨董店は少なくはないが、中身は新しい機械だったり、飾りとしての用途のみというところがほとんど。大場さんの店のように、当時のままに使える状態にして販売するところなど、全



理髪店の店先にあったサインポールや、ホウロウ看板。古いシェードの灯に照らされ、店内はワクワクするほどのお宝が詰まっている。しみじみと昭和の時代の豊かさを体感。

国を探してもそうは無いはずだ。
「映らないもの、鳴らないもの、動かないものは売りません！」

セピア色の店内にカチカチと響き渡る柱時計、ダイヤル式電話、洗濯機、冷蔵庫……。いずれも大場さんの手によって生命を吹き込まれ、次の持ち主への嫁入りを待っている。
「ちょっと音を出してみますね」

大場さんが真空管ラジオのつまみを回すと、「ヒュー」というチューニング音の後に音楽が流れてきた。真空管と木製の本体が織りなす柔らかな温かみのある音。ブラウン管テレビもスイッチを入れるとこちらもモノクロの画像がちゃんと映る。呼び覚まされる遠い日の記憶。電気製品が初めて家に届いた時の嬉しさ、懐かしさが思わずこみ上げてきた。

そのいっぽうで、今や真空管やブラウン管は手に入れることはなかなか難しいという。
「どこかにストックがあると聞くと、どこへでも車を走らせます(笑)」

作業室のラック・棚には、長年集めてきた真空管や各種部品が大切にストックされていた。隠れて見えないうちの裏の部分も昔の仕様にこだわるため、部品探しの労力は惜しまない。古いものの再生への熱い思いは、行動力も広げていくのだ。
修理していると見えてくる昔の職人、技術者の技の高さにもいつも感心させられるという大場さん。

「古き良きモノ、昔の素晴らしい技術を次へとつないでいけたらという一念。思い入れと好きという気持ちでやっているだけです」



大場敬志(おおば けいし)さん。修理が出来る骨董屋さん。を掲げ、レトロな電化製品を実際に使えるように直すエキスパート。専門的知識、技術を要する経済産業省のPSE(電気用品安全法)の届け出済みで、商品の安心・安全性も大鼓判だ。



福岡県福岡市南区清水2-8-27
TEL:092-542-9082
<http://www.retoro-katsu.jp/>
営業時間:11:00~19:00
定休日:木
アクセス:西鉄天神大牟田線「高宮駅」よりクルマで5分